

11月のびびり

楽しいハロウィンに

10月31日、遠浅自治会企画部と青少年育成部が共催でハロウィン行列を実施。

お姫様やマントを羽織った魔法使いに扮した子どもたち45名がセンターハウスとあさに分かれてスタンプリーを行った後、お楽しみ品の仮装コンテストで盛り上がりました。来年はもっと完成度の高い仮装が見られるかも…。



時における輸送業務に関する協定書締結式



物資確保に大きな助け

11月6日、町と室蘭地区トラック協会苦小牧支部は、緊急時における輸送業務に関する協定書を締結。

この協定は、災害発生時にトラックを用いた物資の輸送の協力を約束するもので、協定書を交わした瀧町長は、「災害はいつ訪れるかわからない。行政のみでの物資の確保は難しいため、大変心強い協定となった」と感謝の意を表しました。

ハテナがいっぱい

11月10日、早来小学校2年生32名が生活科の授業で役場を訪れました。

役場は何をしているところ？役場の中にはどんなものがあるんだろうと、児童たちにはハテナがいっぱい、用意してきた質問を職員に投げかけ、一つ二つとハテナを解決。質問に答える職員も、理解してもらったため、言葉使いにひと苦労していましたが、役所言葉を分かりやすく説明する練習になりました。



防災への取り組みを紹介

11月11日、社会教育による「学び」を通じた地域課題解決のための支援スキル・ノウハウを学ぶとして、北海道(道南ブロック)「地域力活性化コンファレンス事業」が追分公民館で開催されました。

教育関係者や防災担当者ら40名が参加。当町の地域コミュニティ放送「あびらチャンネル」について紹介し、事例のないテレビを活用した防災への取り組みに高い評価をいただきました。



ボランティアで施設訪問

11月12日、安平ライオンズクラブ(田村興文会長)がグループホームふるさとおいわけを訪問し会員から集めた未使用タオル300本を寄贈しました。また、中国伝来の弦楽器二胡と尺八の演奏会や施設利用者への傾聴ボランティアも実施。施設管理者の佐藤昌樹さんは「タオルは衛生管理に使用したい。演奏会も利用者の皆さんはとても喜んでいました」と感謝の言葉を述べていました。

